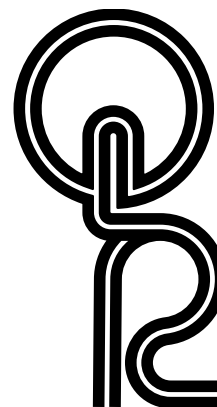


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 10 No.2, 2003



第四紀学会ミニ・シンポジウム「花粉分析から何がわかるか」の会場風景 .2003年2月1日に明治大学駿河台校舎を会場に開催された .本文5頁参照 .(撮影 : 橘 英彰)

Vol. 10 No. 2

April 1, 2003

| | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 第四紀学会 2003年大会案内 (第2報) 2 | INQUA 招致ワーキンググループ 議事録..... 8 |
| ミニ・シンポジウム報告..... 5 | 評議員会議事録..... 9 |
| 訃報・研究集会案内..... 6 | 幹事会議事録..... 11 |
| 国際会議の案内..... 7 | 会員消息..... 11 |

第四紀学会 2003 年大会のお知らせ (第 2 報)

第四紀学会 2003 年大会案内

1. 日時・開催場所: 2003 年 8 月 29 日 ~ 9 月 1 日, 大阪市立自然史博物館
2. 発表の申し込み締め切り: 2003 年 6 月 10 日 (火)
3. シンポジウム「大都市圏の完新統に記録された人と自然の相互作用」
4. 巡検の概要 (9 月 1 日実施, 1 コースのみで, 申し込みは次号で案内)
5. 普及講演会「大阪 100 万年の自然と人の暮らし」
6. 大阪大会のホームページ
<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/geos/geo3/qr2003/index.htm>
7. 宿泊
大会のホームページを参照.

1. 日時・開催場所の概要

研究発表, 総会, 評議委員会, 懇親会, シンポジウム, 普及講演会, 巡検:

日程: 2003 年 8 月 29 日 (金) ~ 9 月 1 日 (月)

実行委員会委員長: 吉川周作
委員: 熊井久雄, 那須孝悌, 樽野博幸, 三田村宗樹, 松田順一郎, 小倉徹也, 趙哲濟, 石井陽子, 中条武司

連絡先: 吉川周作 〒 558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪市立大学理学研究科人類紀自然研究室
e-mail: grosaka@sci.osaka-cu.ac.jp
Tel: 06-6605-2590, Fax: 06-6605-3176

開催場所:

一般研究発表 (口頭・ポスター), シンポジウム, 総会, 懇親会, 普及講演会
大阪市立自然史博物館 (〒 546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23)

- 29 日 (金) 一般講演, ポスターセッション, 評議委員会 (夕方)
- 30 日 (土) 一般講演, 総会 (昼前), ポスターセッション, 懇親会
- 31 日 (日) シンポジウム (午前)「大都市圏の完新統に記録された人と自然の相互作用」, 普及講演会 (午後)「大阪 100 万年の自然と人の暮らし」
- 9 月 1 日 (月) 巡検 「大阪南部の大阪層群の地層および大阪平野の沖積層における堆積物と遺構」

2. 発表の申し込み

2-1. 一般研究発表の申し込み

今大会では, 一般研究発表をオーラル・セッションとポスター・セッションの 2 つに区分します. ポスターの掲示は終日可能です.

一般研究発表での講演を希望される方は次のページにある「発表申込用紙」(コピーでもよい)に所定の事項を記入の上, 「2-3 講演要旨の原稿用紙の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピー 1 部を 6 月 10 日 (火) までに (必着厳守) 行事幹事までお送り下さい. 原稿の行事幹事への到着をもって原稿の受付といたします. 一般研究発表では 1 人一件のみの発表が可能です. オーラル・セッションの発表時間は 1 人およそ 12 分 (質問時間を除く) 程度を予定しています (発表件数によって変更の可能性有り). 発表時間を厳守していただくために, スライド・OHP の使用は合計で 8 枚以内とさせていただきます. 十分な説明や討論を希望する方には, ポスター・セッションへの申し込みをおすすめいたします. 昨年同様にポスター発表の口頭ショートサマリー発表を行う予定です (各 2-3 分). オーラル・セッション, ポスター・セッションともに講演要旨集に 2 ページ執筆して下さい. オーラル・セッションでのスクリーンは 2 幕用意しますので, スライドと OHP を組み合わせると 2 つ使用可能です. また今回は液晶プロジェクターの使用が可能となります. 使用にあたっての注意は次回のお知らせまたはホームページに掲載しますので, 使用を希望される方はそれをご覧下さい. なお, 今回は申込用紙の書式も変更しました. 連絡先としてファックス番号と電子メールアドレスは連絡を円滑にするために是非ご記入下さい.

要旨集原稿の送付先:

〒 448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1
愛知教育大学理科教育講座
日本第四紀学会行事幹事 河村善也あて

(TEL: 0566-26-2374, FAX: 0566-26-2310, e-mail: yskawamr@aucc.aichi-edu.ac.jp)
(送付は郵便でお願いします. 送付先は実行委員会ではありません. お間違えのないようにご注意下さい)

2-2. シンポジウムの原稿提出

シンポジウムで発表される方は, 「2-3 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピーに, 「発表申込用紙」(コピーでもよい)を添えて, 6 月 10 日 (火) までに上記の行事幹事までお送り下さい. 原稿枚数は 2 ページまたは 4 ページでお願いします (なおシンポジウムでの公募講演・発表に応募

される方は3. も見てください).

2-3. 講演要旨の原稿の書き方

原稿用紙は、発表者各自が用意したA4版白紙を、横書き・縦置きで使用してください。左右各2.5cm、上端3.0cm、下端3.5cmは空白にしてください。表題・著者名は、(例)のように和文表題・著者名(所属)、英文著者名・表題の順に書いてください。和文表題は、1行目の左側を1.5cmあけて(左端から4.0cm)左詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも1.5cmあけて左詰めで続けてください。

和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも1.5cmあけて右詰めにしてください。所属は和文著者名の後にカッコを入れて簡潔に書いてください。英文著者名・表題は、和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「;」でつないで書いてください(所属は不要)。本文は英文表題の次の1行をあけて書き始めてください。行数・字数は自由ですが、36行・35字程度を目安としてください。不明な場合は昨年要旨集を参考にしてください。本年も同一仕様です。

ワープロ使用の場合は濃く印字してください。手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いてください。手書き図表の場合は黒インクを使用し原稿用紙に直接書くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼ってください。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようご注意ください。印刷時にA4の原稿がB5版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の1」という表現はしないで必ずスケールを入れてください。

3. シンポジウム

「大都市圏の完新統に記録された人と自然の相互作用」

大阪をはじめ東京や名古屋の都市圏は後氷期に形成された海岸平野に立地した人間活動の場です。これらの海岸平野は縄文海進以降の自然環境変遷に伴って形成された沖積層から構成されています。したがって、地表近くの完新統は社会形成や人の生活を制約して来ました。また、肥大化した人間活動は完新世の自然状態にインパクトを与え、新しい完新統を形成しつつあります。このような問題について、第四紀学的見地から討論を行い、日本をはじめ世界の多くの都市が立地する「都市完新統」の研究方法を探ってみたいと思います。

このシンポジウムでは、世話人が依頼するキーノート講演者以外に、表記のテーマに関連したコメントおよびポスターを公募いたします。キーワードは大都市、完新統、環境変遷、人為インパクトです。世話人会では、応募された研究発表がシンポジウムの主旨に合うかどうかを事前に検討させていただきたいので、応募

される方は5月20日(火)までに講演要旨の原稿と発表申し込み要旨をシンポジウム世話人の熊井までお送り下さい。なお、応募された口頭研究発表のうちシンポジウムのポスター発表や一般研究発表にまわさせていただくことがありますので、ご了承おき下さい。

世話人：石綿しげ子、熊井久雄、松田順一郎、三田村宗樹

応募先：〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学理学研究科人類紀自然研究室気付熊井久雄

4. 巡検

今回の大会では次のような巡検を計画しました。詳細は次回にご案内いたします。

定員：22名

見学予定内容：

野外見学会では、大阪地域に広く分布する代表的な第四紀層である大阪層群と、大阪平野を構成する沖積層やそこに残される遺構について見学する予定です。大阪層群については、大阪南部の丘陵地に露出する地層を見学します。特に代表的な広域火山灰層である福田火山灰層やアズキ火山灰層、代表的海成粘土層のMa3層などを見学予定です。さらに、大阪平野で行われている文化財発掘調査現場を訪れ、人間活動の跡が挟まった沖積上部砂層を中心に当時の環境や人々の暮らしぶりを再現するための観点について見てゆく予定です。

5. 普及講演会「大阪100万年の自然と人のくらし」

大阪地域には大阪層群、高位・中位・低位の各段丘構成層、沖積層などの第四紀層が分布します。第四紀は別名、人類紀とも呼ばれますが、大阪府下では後期旧石器時代以降の人類遺跡が多数見つかり、毎年千件を超える考古学の発掘調査が行われています。それらの調査成果も踏まえて、まずはじめに、大阪の第四紀層、特に中位段丘構成層から沖積層の成り立ちと変遷について、続いて、中世から近世への転換の契機となった都市大坂の発生と展開について、第四紀層序学と考古学の立場から紹介します。

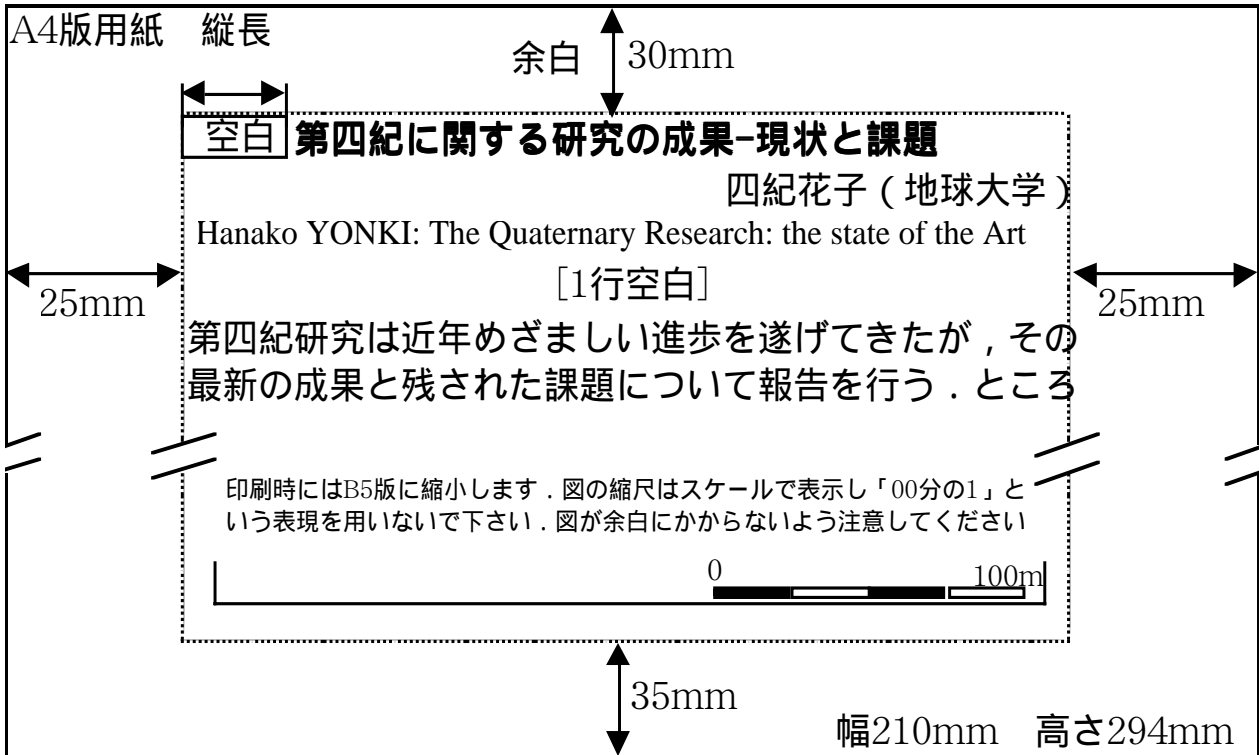
6. 大阪大会のホームページ

<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/geos/geo3/qr2003/index.htm>

7. 宿泊

宿泊の案内と申し込みは大会のホームページを参照して下さい。

「講演要旨の書き方の例」と「発表申し込み書」の書式



発表申し込み書

| | | | | |
|--|-------------|--------------------|------------|-----------|
| 氏名・所属 | | | | |
| 講演題目 | | | | |
| キーワード (3~5個) <small>講演要旨には掲載しません</small> | | | | |
| 代表者の連絡先 | 〒 | | | |
| | e-mail : | | Tel : | Fax : |
| 発表種別 (を付ける) | 一般研究発表 | | | シンポジウム |
| | 口頭発表 | ポスター | どちらでもよい | |
| スライド・OHP の使用 (を付ける) | スライド (8枚以内) | スライド+OHP (8枚以内) | OHP (8枚以内) | 液晶プロジェクター |

日本第四紀学会 2003 ミニ・シンポジウム 「花粉分析から何がわかるか」報告

小田静夫（東京都教育庁文化課）

2003年2月1日（土）13時30分～17時00分、明治大学駿河台校舎リパティタワー7階1076号室で行われた。

コーディネーター松下まり子（神戸大学）、コメンテーター米林伸（立正大学）で、話題提供は、「最終氷期以降の東日本の山地湿原形成と植生変遷」叶内敦子（明治大学）、「河内平野周辺地域の植生変遷の空間的分布 - 埋蔵文化財調査に伴う成果をもとにして - 」辻本裕也（パリノ・サーヴェイ）、「花粉化石群集からみた生業の痕跡 - 東京低地を例にして - 」田中義文（パリノ・サーヴェイ）。そしてコメントを百原新（千葉大学）、清永丈太（東京都建設局）が行った。

当日、50名近くの参加者があり、活発な質問、議論が展開した。松下は今まで第四紀研究に投稿された花粉分析関係論文を紹介した。米林は一地域を取り上げ、花粉分析結果の解釈について提言した。叶内は福島県高原湿原の分析結果から、最終氷期以降の周辺地形の植生を復元した。辻本は河内平野の縄文から弥生にかけての遺跡での分析結果から、地形と植生環境を総括した。田中は東京低地遺跡の分析結果から、東京湾地域の植生を復元しその問題点を取り上げた。百原は大型植物化石と花粉分析結果を比較して、両者の接点の問題点を指摘した。清永は現世樹木花粉の周辺飛散の状況から、分析結果の読み取り法を示唆した。

質疑応答では、花粉分析の有効性、解釈に対する注意点などが述べられ、花粉分析法の発展が期待された。

< 講演要旨 >

1 最終氷期以降の東日本の山地湿原形成と植生変遷（叶内敦子・明治大学）

東日本の山地湿原の形成開始は、最終氷期以降の様々な年代が知られているが、地域により特徴が認められる。関東地方北部の尾瀬ヶ原周辺では、後氷期に形成が始まる湿原が亜高山帯に分布し、湿原形成と多雪化の結びつきが考えられる。東北地方南部の南会津地方では標高600～1200m火砕流台地上に湿原が点在し、形成年代は最終氷期にさかのぼる。これらの湿原は最終氷期の寒冷期に針葉樹林の中に形成が始まり、後氷期に周囲はブナ・ミズナラ林へと変化した。湿原は現在も維持されている。湿原形成期の周辺の古植生をもとに、湿原形成と森林の発達について考察する。

2 河内平野周辺地域の植生変遷の空間的分布 - 埋蔵文化財調査に伴う成果をもとにして - （辻本裕也・パリノ・サーヴェイ）

大阪湾岸地域の考古遺跡の発掘調査では、古環境復元を目的とした自然科学分析調査が多数行われている。これらの成果は、本地域における人間と自然営力を複合した動態を研究する上で有効な情報であるが、時間・空間スケールの捉え方の相違等により、地域的に十分な解析に

は至っていない。そこで、本地域の中で、地形・土壌・水文・気候を中心に据えて空間的かつ機能的考察を行う「地生態学的」検討が行われている。六甲山南麓や生駒山西麓地域など各地域において、地生態学的情報と古生態学的情報を比較検討し、空間的かつ機能的な植生変遷の検討を試みた。その結果、大阪湾岸地域の植生変遷は、大きくは、完新世前半が気候因子の影響を強く受けているものであるのに対して、完新世後半は土地条件の変化および人間の影響を強く反映したものであることが推定される。完新世後半の植生変化のうち、最初の変化である縄文時代前期後半～中期に起こる変化は花粉化石群集において顕著であり、照葉樹林要素を主とする組成において、マツ属が増加する地点、落葉広葉樹要素が増加する地点、温帯性針葉樹要素が増加する地点、照葉樹が存続する地点などが確認される。各地点の花粉化石群集の変化と地形変化とは良く対応し、土地条件の変化による植生の遷移が起こり、多様な植生が成立したことが推定される。その後、縄文時代晩期から弥生時代前期には、これらの地点の多くで照葉樹林の回復が確認される。いずれの地点も本時期に安定した土壌の発達が行われている。弥生時代前期以降は、人間活動の影響が強まり、さらに植生は多様になってくる。

3 花粉化石群集からみた生業の痕跡 - 東京低地を例にして - （田中義文・パリノ・サーヴェイ）

東京低地や中川低地では、有楽町層や七号地層といった最終氷期末以降の厚い堆積物が分布している。これらを対象にした花粉分析によって、連続した花粉化石群集得られ、生層序対比や地域的な植生変遷が明らかになっている。この中には、中世以降のマツ属花粉増加といった人為的な植生干渉による情報も含まれている。

東京低地の場合、広大な集水域を持つため、広範囲から花粉化石がもたらされ、局地的な植生を反映しにくいという事情を持っている。一方、台地を解析する谷の奥部や、発掘調査で検出された遺構内の堆積物は、局地的な植生を反映している場合がある。このため、当時遺跡内に植えられていた植物や、谷奥周辺に栽培されていた可能性がある植物が復元できる場合がある。たとえば、葛飾区葛西城におけるガマズミ属やエノキ属 - ムクノキ属の多産や、北本低地におけるクリ花粉の多産は、このような事例の一つであると考えられる。

東京低地およびその周辺では、連続しているが局地性を反映しにくい花粉化石群集と、断片的ではあるが局地性を反映している花粉化石群集が存在する。これらを互いに組み合わせ、他の化石や考古学的な情報も含めて解釈することによって、植物と人間との関わりを検討していくことが可能となる。また、微粒炭をはじめとしたパリノモルフについても今後注目していきたいと考えている。

訃報 戸谷 洋会員を送る

都立大学名誉教授戸谷 洋氏 2002年12月6日永眠。享年79才。同氏は1923年東京の生まれ。東京市立一中(現都立九段高校)で浅井治平氏に地理学の薫陶を受け、浦和高校から東大地理へ進む。辻村太郎、多田文男などの諸先生に師事。卒業後、都立大理学部地理学教室助手となる。当時病氣療養中の村田貞蔵教授に代わり、貝塚爽平氏とともに世田谷校舎地理教室の整備に当たった。同氏との共著論文「武蔵野台地東部の地形地質と周辺諸台地の Tephrochronology 1953」は、この頃始まった関東ロームの団体研究とともに、火山灰層を地形面区分に導入するという画期をもたらすことになった。立川ローム層中の通称黒バンドと呼ばれる暗色帯が埋没化石土壌であることを立証した(1956)のも、この頃のローム研究の一端である。続く57年、国際地球観測年に先立って、観測船宗谷が南極を目指した際、吉川虎雄氏とともにその予備観測隊員として、日本隊初めての昭和基地に足を印した、というより、同基地選定のためにオングル島への偵察的調査を行った先遣隊が両隊員だったのである。これには昔浦和高校山岳部で鳴らした経験がものをいった。その後東アフリカの地形調査におもむくなど、その語学力を生かした国際派であると同時に、探検家的開拓者的地理学者であった。1962年から十数年間本学会評議員を歴任。86年都立大退官後は帝京大学教授を勤めた。

(羽鳥謙三記)

「第2回活断層研究センター研究発表会」開催のお知らせ

産業技術総合研究所活断層研究センターでは「第2回活断層研究センター研究発表会 - 活断層評価手法の高度化にむけて -」を下記のように開催します。

当センターでは、平成15年度末までに全国の主要起震断層に関する調査研究成果をとりまとめたデータベースを構築し、断層の活動性に関する学術的な長期予測を行うことを計画しています。今回の研究発表会では、多重セグメント地震を基本としたカスケードモデル等の最新の知見に基づいた活断層評価手法(試案)を提案するとともに、評価のためのデータベースの基本構造と評価手法の適用事例を紹介いたします。また、当センターの外部からも講演者を招いて、長大活断層の活動様式に関する最近の研究事例をとりあげるとともに、その評価手法と強震動予測に関する問題点を検討します。

日時：平成15年4月18日(金)午前10時～午後5時

会場：江戸川区総合区民ホール、小ホール(東京都江戸川区)

発表予定内容：

1. 活断層評価手法について：
断層活動モデルについて
活断層データベースの構造について
活断層評価手法(試案)とその適用事例について。
2. 長大活断層の活動様式について：
糸魚川 - 静岡構造線活断層系の事例
北アナトリア断層系の事例 - 1 (1999年地震断層地域)
北アナトリア断層系の事例 - 2 (1912-1999年地震断層地域)
断層活動モデルと強震動予測について
3. 総合討論：活断層評価手法の高度化に向けて
4. 活断層研究センターにおける平成14年度の研究成果(ポスター発表)

問い合わせ先：活断層研究センター 粟田泰夫・吉岡敏和

E-mail: awata-y@aist.go.jp, yoshioka-t@aist.go.jp

電話: 029-861-3823, 2465/Fax: 029-861-3803

http://unit.aist.go.jp/actfault/activef.html

18 th International Senckenberg Conference
VI International Palaeontological Colloquim in Weimar
Late Neogene and Quaternary biodiversity and evolution:
Regional developments and interregional correlation.

Date: 25-30 April, 2004
Place: Weimar (Germany)

The conference will focus on different aspects of Late Neogene and Quaternary biodiversity and evolution. In particular, it will provide a platform where recent advances in our understanding of fossil communities and any observed evolutionary trends, can be presented and their interregional significance and correlation discussed.

This conference is dedicated to the life's work of Professor HANS-DIETRICH KAHLKE (founder of the Institute for Quaternary Palaeontology in Weimar), on the occasion of his 80 th birthday. For further information, visit the following website <http://senckenberg.de/fis/quapal.htm>.

詳細については河村善也 (yskawamr@aeu.ac.jp) までお問い合わせ下さい。

モンスーンアジア太平洋地域のデルタプロジェクトへの招待: IGCP-475 Delta MAP
プロジェクト

アジア太平洋地域におけるデルタを対象とした新しいIGCPプロジェクトが今年から開始されます。同プロジェクトは、米国ニューヨーク州立大学のSteven Goodbred氏と筆者によって提案されたプロジェクトで、正式名称は、Deltas in the Monsoon Asia-Pacific region (DeltaMAP): Late Quaternary Development and Recent Changes Due to Natural and Human Influences、過去約5万年間を対象として、デルタの変遷、堆積作用、人間活動の影響の解明を主目的にしています。2003年から2007年までの5ヶ年間のプロジェクトで、第1回の年会は、2004年1月14 - 16日にタイで行われる第5回アジア海洋地質会議の直後に同じくタイで行われることが決まっています。

アジアには世界で最も多くの大規模デルタが存在します。これら的大河川とオセアニアを含めた島嶼の河川とを合わせると、同地域の堆積物の輸送量は世界の陸から海に供給される土砂量の約7 - 8割に達します。デルタの低平な沿岸地帯は、アジアの穀倉地帯であり、世界でも最も人口の密集した地帯と

いえます。第四紀後期の海水準変動に対応して、陸棚域や沿岸域がどのように変遷してきたのか、近年の人間活動によってどのような変容を示しているのか、5ヶ年間のプロジェクトで明らかにしていく予定です。

DeltaMAPプロジェクトが対象としている地域はアジア太平洋地域ですが、同プロジェクトには、米国のChuck Nittrouer, James Syvitski, Steve Kuehl, Allen Archer, フランスのSerge Berne, オランダのGeorge Postma, イギリスのJim Best, オーストラリアのColin Woodroffeなど、現在世界の最先端で活躍している研究者が参加しています。プロジェクトの連絡は、基本的にはメールで行われます。登録されれば、関連情報をお流し致しますので、ご希望の方は、産業技術総合研究所 齋藤 <yoshiki.saito@aist.go.jp> まで、メールで連絡して下さい。皆さんの参加を歓迎致します。

産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門 齋藤文紀

評議員選挙の実施について

本年は、会則第9条、第10条及び役員選挙規定に基づく評議員選挙の年です。今回は2003～2004年度の評議員の選出を行います。投票用紙は4月前半にお送りし、投票締め切りは5月中旬を予定しております。

前回の投票率は11%と低く、必ずしも会員の意見が十分に反映されているとは言えません。第四紀学会の今後の発展のためにも是非ともご投票をお願いいたします。

日本第四紀学会選挙管理委員会

2007INQUA 招致ワーキンググループ
第4回会合 議事録

日時：2003年2月15日(土) 17:15 - 19:00

会場：東京大学学士会館(学士会分館)2階3号室

出席：熊井久雄(委員長), 町田洋, 太田陽子(以上, 顧問), 奥村晃史, 齊藤文紀, 鈴木毅彦(以上, 幹事), 小池裕子, 久保純子, 真野勝友, 三浦英樹, 中村俊夫, 大村明雄(以上, 委員), 桑原拓一郎(事務局)

欠席：佃栄吉(幹事), 遠藤邦彦, 福沢仁之, 兵頭政幸, 岩田修二, 河村善也, 増田富士雄, 松浦秀治, 宮内崇裕, 小口高, 小野昭, 小野有五, 大場忠道, 杉原重夫, 多田隆治, 立石雅昭, 海津正倫, 渡邊真紀子, 山崎晴雄(以上, 委員), 青木かおり, 吾妻崇, 堀和明, 穴倉正展(以上, 事務局)

【確認事項】

1) 前回議事録

- ・参加者リスト訂正。
(久保, 欠席 出席)
- ・用語訂正。
(INQUA 執行部秘書 事務局長)

【報告事項】

1) 幹事会活動報告

- ・ポーター氏招聘。
(「ポーター元INQUA会長への招致説明会」の議事録参照)
- ・会議のテーマの変更。
(Exciting Quaternary in Dynamic Areas
Quaternary Research in Dynamic Areas)
- ・日程変更。
(夏休み 4月28日~5月6日)

2) プロポーザルの作成状況

- ・既に体裁は整っている。
- ・ポーター氏による英文校閲を既に2度行なっている。
- 3) CDの作成状況
- ・遅れ気味である。
- ・機械的な作業は, 産総研・活断層研究センターの非常勤職員に依頼してある。
- ・機械的にできない部分で, 手間と時間がかかっている。

【討議事項】

1) 日程変更について

- ・巡検等で宿, 交通の手配がたいへんである。
- ・時期的に北海道や山岳での巡検が困難である。
- ・至急, 会場と松田氏(TCVB)に連絡する必要がある。
- 2) プロポーザルについて
- ・スペルミスが多々ある。

- ・町田&奥村両氏による添削が, 後半の部分で反映されていない。
- ・冒頭に組織の沿革を書くのはおかしい。
- ・内容にまだまだ問題がありそうなので, 大至急, 幹事&WG全員で再度チェックすることが決まり, その由のメールをその場で奥村氏が送信した。
- 3) CDの作成について
- ・字が小さすぎる。

【次回以降の会合の日程】

- ・次回：4月19日(土曜日), 午後, 江戸川区総合区民ホール。
- ・次々回：6月。

以上

日本第四紀学会2002年度第2回評議員会議事録

日時：2003年2月1日(土) 10:30 ~ 12:40

場所：明治大学駿河台校舎 大学会館5階父母センター第1会議室

議長：松島義章

出席者：熊井久雄(会長), 海津正倫, 遠藤邦彦, 太田陽子, 奥村晃史, 小田静夫, 織笠 昭, 河村善也, 菊地隆男, 小泉武栄, 齋藤文紀, 坂上寛一, 鈴木毅彦, 陶野郁雄, 永塚鎮男, 福澤仁之, 町田 洋, 松浦秀治, 松下まり子, 松島義章, 松田時彦, 真野勝友, 山崎晴雄(以上評議員), 宮内崇裕(幹事), 中川庸幸(学会事務センター), 委任状13通

熊井久雄会長の挨拶の後, 松島義章評議員を議長に選出し, 以下の報告と審議が行われた。

I. 報告事項

1. 2002年度事業中間報告

1.-1 庶務

- (1) 会員動向(2003年1月15日現在)
正会員1,777名(うち, 学生会員79名, 海外会員19名を含む), 名誉会員4名, 賛助会員13社, 団体購読会員101団体. 逝去会員 野義夫, 春日井昭, 池田国昭。
- (2) 2002年度第1回評議員会を2002年8月23日に信州大学理学部において開催した。
出席者28名, 委任状11通. 議長: 中村俊夫. 2002年総会を2002年8月24日に信州大学理学部において開催した. 議長: 齋藤文紀. これらの詳細は, 議事録として第四紀通信9巻5号に掲載した。
- (3) 図版引用許可の受付, 会員名簿整理, 寄贈図書
の受付(2002年9月4日から2003年1月10日までに14冊)を行った。
- (4) 以下のシンポジウム・講演会等の後援を行った。
2002 国際地質環境ワークショップ(2002年11

- 月16日～21日:浦安ブライトンホテル)の後援・シンポジウム「火山の国日本の箱根シンポジウム」(2002年12月14日:箱根町立仙石原公民館)の後援。
- (5) 2003年日本第四紀学会論文賞に向けて、論文賞選考委員の選挙を行った。熊井久雄会長から推薦された11名の候補者に対して、評議員による選挙を行った結果、以下の5名が候補者として選出された。井内美郎、奥村晃史、小池裕子、小泉格、中村俊夫。次点 坂上寛一。
- (6) 50周年記念企画事業に向けて50周年企画委員会を立ち上げた。委員は以下のとおり。阿部祥人、奥村晃史、河村善也、中村俊夫、兵頭政幸、松浦秀治、吉川周作。
- (7) 2002年度選挙管理委員会を立ち上げた。委員は以下のとおり。植木岳雪、白井正明、谷口 薫、塚本すみ子、山田和芳、堀 和明。
- (8) その他
個人のホームページにおける自身の講演要旨公開について、これを認めることとした。・日本学術会議学術研究団体登録が完了した。・旧石器捏造問題に関わり、第四紀学会の出版物・会誌などの内容を点検する件について審議し、この問題に関するWorking Groupを立ち上げた。

1.-2 行事

- (1) 2002年大会(総会,シンポジウム,一般研究発表,懇親会,巡検,普及講演会)を信州大学において、2002年8月23日(金)～8月27日(火)に開催した。8月23日・24日は信州大学理学部において一般研究発表(口頭発表45件,ポスター発表25件)と総会,評議員会を行い、8月25日には同じ場所でシンポジウム「日本アルプスの形成と自然環境の変遷」(世話人:三宅康幸・公文富士夫・赤羽貞幸・鈴木毅彦・堤 隆)を行った。8月24日の午後には、口頭発表と並行して、信州大学経済学部大講義室で「糸魚川-静岡構造線活断層系北部地域の活動史と地震災害」をテーマとして普及講演会を実施し、多数の参加者があった(講演者:宮越勝義・酒井潤一・塚原弘昭)。8月26日には「信州の旧石器遺跡と和田峠黒曜石原産地」をテーマとする野外見学会(案内者:堤隆,参加者は案内者を含め6名)と「八ヶ岳の第四系:更新世の火山活動および遺跡」をテーマとする野外見学会(案内者:内山 高・八ヶ岳団体研究グループ,参加者は案内者を含め6名)を行った。また8月26日・27日には「上高地の自然環境と焼岳の火山地質」をテーマとする野外見学会(案内者:三宅康幸・及川輝樹・岩田修二,参加者は案内者を含め10名)を行った。一般講演・シンポジウム参加者は223名(内会員149名,非会員74名)で、懇親会参加者は70名、講演要旨集の販売数は198冊であった。なお普及講演会開催のため平成14年度科学研究費「研究成果公開促進費:研究成果発表(B)」の申請を大会準備委員会の公文富士夫会員が中心となって行ったが、残念ながら不採択となった。
- (2) 2003年5月26日(月)～29日(木)に幕張メッセ国際会議場で開催される地球惑星科学関連学会2003年合同大会に参加するため、「第四紀」のセッション(オーガナイザー:宮内崇裕

渉外幹事)などの準備を渉外幹事が中心になって行った。

- (3) 日本第四紀学会2003年大会の総会,シンポジウム,普及講演会,巡検等の準備を行った。大会は、2003年8月29日(金)～9月1日(月)に大阪市立自然史博物館を主会場として行われる(大会準備委員長:吉川周作)。8月29日はシンポジウム「大都市圏の自然環境変遷史(案)」(世話人:熊井久雄ほか)と評議員会を予定している。8月30日・31日は一般研究発表,懇親会,総会を予定している。普及講演会は「大阪100万年の自然と人の暮らし(案)」(世話人:趙哲済ほか)というテーマで、8月31日に予定している。9月1日には「京阪奈丘陵と東大阪市池島遺跡」というテーマで巡検を行う予定である(世話人:三田村宗樹・松田順一郎)。なお、普及講演会のため、平成15年度科学研究費「研究成果公開促進費:研究成果発表(B)」の申請書を大会準備委員会の熊井久雄会長・中条武司会員が中心になって作成し、申請した。
- (4) 日本第四紀学会2004年大会の会場選定を行い、山形大学に打診を行った結果、現在受諾の方向で検討中とのことであった。

1.-3 企画

(1) 2003年シンポジウム

2003年2月1日(土)13時30分～17時00分、明治大学駿河台校舎リパティタワー7階1076室で予定。テーマは「花粉分析から何がわかるか」で、発表内容は、コーディネーター松下まり子(神戸大学)、コメンテーター米林 伸(立正大学)で、話題提供は叶内敦子(明治大学)「最終氷期以降の東日本の山地湿原形成と植生変遷」、辻本裕也(パリノ・サーヴェイ)「河内平野周辺地域の植生変遷の空間的分布 埋蔵文化財調査に伴う成果をもとにして」、田中義文(パリノ・サーヴェイ)「花粉化石群集からみた生業の痕跡 東京低地を中心として」。コメントは百原新(千葉大学)、清永丈太(東京都建設局)を予定。

(2) 第8回日本第四紀学会講習会

テーマは「湖沼・内湾・レス堆積物コアの採取・解析法」講師は福沢仁之(東京都立大学)で行なった。第1回は2002年8月22日(木)、長野県阿南町深見池、第2回は10月13日(土)～14日(日)、東京都立大学、第3回は2003年1月11日(土)東京都立大学で行った。関連記事は第四紀通信に掲載された。

1.-4 渉外

(1) 地球惑星科学関連学会

<2003年合同大会>

第四紀学会としてレギュラーセッション「第四紀」を応募し採択された。また、同時に採択された「古地震と活断層」セッション提案者のメンバーとして、地震学会・地質学会とともに共同コンナーとして参加することとなった。

会期:2003年5月26日(月)～29日(木)

(プログラム未定)

会場:幕張メッセ国際会議場

各種オンライン登録・締め切り

1. 予稿集原稿 受付開始 1月10日 早期締

切：2月14日，最終締切：2月21日
2. 大会参加登録 受付開始：1月10日
締切：3月20日（全日程参加），5月2日（一日のみ参加）

上記受付登録は，すべて以下の合同大会公式web siteで行う。

<http://epsu.jp/jmoo2003/>

<連絡会>

2002年9月14日に東大理学部にて開催され，2002年合同大会の会計報告，2003年合同大会の準備状況（新会場選定），などについて審議され承認された。

(2) 自然史学会連合関連：

2002年12月7日に国立科学博物館新宿分館資料館にて自然史学会連合総会が開催され，決算報告・ホームページ・地域博物館での研究活動などの報告と，予算関係・加盟学協会共催シンポジウム（仮題：予測の自然史科学）実施などについて審議が行われ承認された。同日午後は，シンポジウム「極域の生物学」が開催された。

(3) 地質科学関連学協会：

2002年11月5日に地質科学連合関連学協会開催による「日本学術会議地質科学総合研究連絡委員会との懇談会」が行われ，地質科学連合関連学協会や日本学術会議の在り方などについて審議された。(1)最大の改革点は「研連」の廃止であり，その後の活動体制の組織化について議論された。(2)小泉首相からパブリックコメントを求められ，<http://www8.cao.go.jp/cstp/pubcomme/gakujutsu/iken.html>掲載予定となった。(3)次回共催シンポジウムは「地学教育」について，2003年5月30日に予定されていることなどが報告された。

(4) 地球環境科学関連学科協議会：

前回の評議会以降とくになし。

1.-5 編集

- (1)「第四紀研究」第41巻5号（原著論文5編，短報2編，72頁），6号（原著論文5編，68頁の合計2冊，140頁を刊行し42巻1号（2月刊行予定：原著論文4編，解説1編，書評）を編集・印刷中である。
- (2)1月8日現在，受理済みの論文は1編のみで，4月刊行予定の42巻2号の掲載論文が枯渇している。審査中の論文は19編である。
- (3)受理論文確保のため査読作業を急ぐとともに，会誌の編集委員会だよりを通じて論文枯渇の危機を会員に訴え，新規論文の投稿を促している。この結果，12月に入って投稿論文数が増加した。
- (4)昨年夏の大会シンポジウム特集号は42巻3号として刊行すべく，信州大学の公文会員を中心に鋭意編集集中である。
- (5)編集経費，特に旅費削減のため，遠方の編集委員には担当論文の受理提案の時だけ，編集委員会に出席してもらうこととした。
- (6)平成15年度学術定期刊行物出版助成金の申請を行った。審査希望分野は人文科学系（文化財科

学）と理工系（地質学）の複合分野である。

1.-6 広報

- (1)「第四紀通信(QR Newsletter)」Vol. 9-5（2002年10月），Vol. 9-6（2002年12月）を刊行し，Vol. 10-1（2003年2月）を準備した。
- (2)学術情報センターのインターネットWWWサーバ上の日本第四紀学会ホームページを通じて広報活動を行った。
- (3)「第四紀通信(QR Newsletter)」の最近のバックナンバーを電子文書(PDF)化し，同ホームページに掲載した。なお，情報の速報性ということから，第四紀通信の発行日（偶数月の1～5日）より2～3週間前の奇数月の中旬には掲載できるように作業を進めている。
- (4)広報委員会の体制，とくに第四紀通信の編集体制について問題点を整理し，改善方法について検討した。
- (5)第四紀学会のメーリングリストについて検討した。

2. 2002年度会計中間報告

全体として，収入は順調に伸び，支出は抑えられている。

<収入の部>

1. 会費：昨年の評議員会報告に比べて30万円ほど増収。
2. 誌代：定期雑誌の購入(32万円)，バックナンバーの販売(16万円)，大会時の要旨集の売上代(50万円)，昨年のミニシンポ資料集(10万円)の売上げがあり増収。
3. 雑収入：2002年大会の巡検返金と大会補助金残金が信州大学より返金され，昨年に比べて増収となっている。

<支出の部>

1. 印刷費

- (41-4)・・・879,690円(2200部)
- (41-5)・・・603,750円(2100部)
- (41-6)・・・547,050円(2100部)

予算通りで，執行中。

2. 編集人件費

・・・現時点では，計上せず。決算時に処理。

3. 会誌・会報発送費

・・・528,199円(半期分)で，予算内。

4. 会報発行費

(9-4)・・・147,735円(2100部)

(9-5)・・・152,985円(2100部)

(9-6)・・・95,865円(2100部)

半期分で396,585円で予算内に収まる予定。

5. 予稿集印刷費

・・・399,000円(350部) 予算内。

(その他資料として2002年12月31日現在の会計状況：省略)

3. その他

3-1 第四紀研究連絡委員会報告

この間の連絡委員会をめぐる状況，日本学術会議第19期会員選出手続きが再開されたこと，研連の活動，以上が報告された。

3-2 2007INQUA招致ワーキンググループ報告この間のワーキンググループの活動報告がなされた。

II. 審議事項

1. 学会のメーリングリストについて。
幹事会より学会のメーリングリスト整備を検討中であることが報告され、運用にあたってのソフト面、技術面について評議員会での討論が要請された。これに対し、他学会での運用状況、意見、要望などが出された。当面、メーリングリストは会員への情報提供に絞られた一方向のものであること、第四紀通信を補完するものであり速報性を活かすためのものであること、などが確認され、今後具体的な提案を幹事会より行うこととなった。
2. 第四紀研究が高度に専門分化されてきたので、専門部外者にも向けた啓発的・解説的なものを要望する声が出された。これに対し編集幹事より、現在第四紀研究に講座を掲載する予定であることや、今後も要望に向けた努力を行うことが示された。

請を行った。審査希望分野は人文科学系(文化財科学)と理工系(地質学)の複合分野である。第四紀研究連絡委員会: 学術会議第19期会員選出手続き再開についての報告。2007INQUA 招致ワーキンググループ幹事会: 次回の第9回会合が1月15日に開催予定であるとの報告。

2. 審議事項

第四紀研究からの図版転載許可(第四紀研究23巻2号70頁付図(貝塚, 1984)「改訂 宇宙から深海底へ図説海洋概論」(豊田恵聖監修; (株)講談社サイエンティフィック)へ)を行なった。WPGM 2004 (Honolulu)でのcosponsor依頼(AGU)に対する対応を審議した。次期選挙管理委員会委員について審議した。第2回評議員会の出欠状況の確認、議事進行、評議員会資料作成について審議した。ねつ造遺跡を取りあげた第四紀研究誌および学会編集単行本・資料集のリストアップを目的としたWorking Groupについて審議した。第四紀学会メーリングリスト開設の可能性について審議した。

次回幹事会を3月14日10:30~12:00とした。

2002年度第4回幹事会議事録

日時: 2003年1月11日(土)10:30-12:00 早稲田大学教育学部16号館512室
出席: 熊井久雄, 真野勝友, 鈴木毅彦, 海津正倫, 小田静夫, 町田 洋, 中川庸幸
欠席: 福澤仁之, 山崎晴雄, 竹村恵二, 河村善也, 宮内崇裕, 小野 昭

1. 報告事項

庶務: 受入図書(8機関から9冊), 会員動向9・10・11月分, 逝去評議員への対応に関する報告。会計: 2002年大会の決算報告, ミニシンポジウムでの書籍販売に伴う送金があった旨の報告。企画: ミニシンポジウムの準備状況に関する報告。行事: とくになし。広報: 第四紀通信9-6を発行し, ホームページにも掲載した。第四紀通信の編集体制について松下まり子広報委員と相談し, 編集担当のアルバイトについて検討した。第四紀通信10-1の編集作業をほぼ終了した。編集: (1)「第四紀研究」第41巻6号(原著論文5編, 68頁を刊行し42巻1号(2月刊行予定: 原著論文4編, 解説1編, 書評)を編集・印刷中である。(2)1月8日現在, 受理済みの論文は1編のみで, 4月刊行予定の42巻2号の掲載論文が枯渇している。審査中の論文は19編である。(3)受理論文確保のため査読作業を急ぐとともに, 会誌の編集委員会だよりを通じて論文枯渇の危機を会員に訴え, 新規論文の投稿を促している。この結果, 12月に入って投稿論文数が増加した。(4)昨年夏の大会シンポジウム特集号は42巻3号として刊行すべく, 信州大学の公文会員を中心に鋭意編集中である。(5)編集経費、特に旅費削減のため, 遠方の編集委員には担当論文の受理提案の時だけ, 編集委員会に出席してもらうこととした。(6)平成15年度学術定期刊行物出版助成金の申

学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

2000年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。2003年度(2003年8月1日～2004年7月31日)を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙(様式自由・ワープロ使用)に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えて、2003年4月18日(金)までに日本学会事務センターまで郵送してください。本届けが提出されない場合は、5月に予定されている会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意ください。なお、本年度、学生会員として入会された方も提出願います。また、日本学術振興会特別研究員(PD)や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問い合わせ先：庶務幹事 鈴木毅彦
(TEL:0426-77-2590、E-mail:suzukit@comp.metro-u.ac.jp)

送付先：〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
(壕)日本学会事務センター 3階 日本第四紀学会事務局宛
TEL:03-5814-5801/FAX:03-5814-5820

提出方法：郵便に限ります。

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。広報幹事：海津正倫(umitsu@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。

お送りいただく原稿は、出来る限りテキスト(.txt)あるいはワード(.doc)形式のファイルでお願いいたします。申し訳ありませんが、マッキントッシュで編集しているため、一太郎の文章はそのままでは読めません。あしからず。なお、長い文章でなければメールの本文として送っていただくのが望ましいのでよろしくお願いたします。また、表に関してはエクセル形式(.xls)形式でお願いいたします。

なお、写真はjpg形式のものを添付ファイルでお送りいただくと幸いです。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日を刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするよう努力していますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 名古屋大学環境学研究科地理学講座 海津正倫
(e-mail: umitsu@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel:052-789-2270 Fax:052-789-2272
広報委員：松下まり子・後藤秀昭

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。